

Key Sentences

- 「誰にも2人の会話を聞かれないように彼は小声で言った。」 so that + S + can [will, may] ~ 「Sが~するように」 that は、しばしば省略される。
- 「何を言ってよいのか分からなかったので、黙っていた。」 分詞構文は《時・理由・条件・譲歩・付帯状況》のいずれかを表す。例文は、《理由》で Since [As, Because] I didn't know what to do, I remained silent. とほぼ同義。not の位置にも注意。
- 「彼はスピーチの途中で時々わざわざ話をやめて我々の質問に答えた。」 stop to ~ 「〔動作をやめて〕わざわざ~する」 cf. stop -ing 「~するのをやめる」 ex. He stopped sitting up late on weekdays. 「彼は学校がある日に夜遅くまで起きているのをやめた。」

解答

- ア
- ウ
- looking out the window
- 一緒にゲームでもしないかという誘いを無視して、静かに口笛を吹きながら車窓からの景色を楽しみ続けたこと。
- もし君が僕の出す問題に間違ったら
- since [because, as] he saw
- エ
- (8) turn (10) gave up
- エ
- イ

解説

- trying to ~ 「~しようとして」 《付帯状況》を表す分詞構文。things he didn't know までで一旦区切って考えると分かりやすい。【K.S.2】を参照。so he could try to ... は so (that) + S + can ~ の構文。【K.S.1】を参照。tense 「〔神経などが〕張りつめた」
- be content with 「~に満足している」 アクセントに注意。「内容」などの意味の名詞の場合は content となる。
- minding his own business, enjoying the passing scenery も可。
- ignored him 以下を指す。
- get ~ wrong 「~を間違える」 it は a question I'll ask you を指す。
- 下線部は《理由》を表す分詞構文。 see

は「理解する」の意味。

- 【K.S.3】を参照。ア「素早くその間にどう答えるかを決めた」 イ「ついにその問題について考えるのをやめた」 ウ「しばらくその問題について考えた」 エ「すぐにその問題について考えないことに決めた」
- (8) 「君の番だ」 cf. Whose turn is it? 「誰の番だ。」 (10) 「あきらめた」
- 本文最終文がこの話の「おち」(punch line) になっている。
- ア。L15を参照。イ。車窓からの景色を楽しむのに没頭していた。(L2~3) ウ。最終段落を参照。エ。L25を参照。

Words & Phrases

mind one's own business 「自分のことに没頭する」 scenery 「景色」 不可算名詞。cf. scene (可算名詞) figure out 「~を理解する」 「問題など」を解決する = understand so bored that he said 「とても退屈してしまったので彼は言った」 so ~ that ... (とても~なので...) 構文は基本中の基本。bored 「退屈した」 = tired being content with what he was doing 「自分のしていることに満足していたので」 《理由》を表す分詞構文で挿入句になっている。= as he was content with what he was doing 【K.S.2】を参照。ignore 「~を無視する」 continue 「~を続ける」 -ing 形だけでなく to 不定詞が後に続くこともある。hum 「口ずさむ」 mad 「激怒した」 decide against 「~をしないことに決定する」 politely 「礼儀正しく」 turn down 「~を断る」 ... was not that smart 「あまり優秀ではなかった」 that は副詞で、通例否定文・疑問文では「あまり~(ない)」の意味を表す。academically 「学問的に言って」 not totally 「完全に~というわけではない」 部分否定。not knowing the answer 「答えを知らなかったので」 《理由》を表す分詞構文で、挿入句。【K.S.2】を参照。disappear 「消える」 using his scratch pad and computer 「メモ帳やコンピュータを使って」 《付帯状況》を表す分詞構文。turning back to the window 「(そして) 窓の方を向いた」 《付帯状況》を表す分詞構文。calmly 「静かに」

全訳

あるとき、科学者と詩人の2人が列車で旅をしていた。彼らは初対面だったので、当然のことながら、2人の間にあまり会話はなかった。詩人は他人のことはかまわず、過ぎ行く景色を

楽しんでいた。科学者は、解く楽しみを与えてくれるように、自分の分からない事柄がないかと真剣に考えようとして、張りつめた気持ちでいた。

とうとう科学者はとても退屈してしまったので、詩人にこう言った。「ねえ、君、1つゲームをしようじゃないか。」詩人は自分のしていることに満足していたので、科学者を無視して、そっと鼻歌を歌いながら窓の外を見続けていた。科学者はこれに腹を立てて、いら立たしそうにもう一度尋ねた。「おい、君、ゲームをしないか。僕が君に1つ質問をし、君が間違ったら、僕に5ドルくれ。次に、君が僕に1つ質問をし、僕が答えられなかったら、君に5ドルあげよう。」詩人は、これについてちょっと考えたが、科学者がとても頭のよい人だと思ったので、ゲームはしないことにした。彼は科学者の申し出を丁重に断った。

科学者は、このときまでにひどくいらついて、これが最後とばかりにまた尋ねた。「さあ、僕が質問をするから、君が答えられなかったら、僕に5ドルくれ。次に君が僕に質問して、僕が答えられなかったら、君に50ドルやるよ！」さて、詩人は、学問的にはあまり優秀ではなかったが、全くのばか者というわけでもなく、彼はその申し出を受けた。「よし」と科学者は言った。「地球と月の間の正確な距離は？」詩人は、答えを知らなかったので、科学者の質問をじっくり考えもせずに、科学者に5ドル札を渡した。

科学者は喜んでその紙幣を受け取って、すぐにこう言った。「よし、今度は君の番だ。」詩人は数分間考えてから尋ねた。「よし、山を登るときは3本足で、下るときは4本足なのは何か。」明るい表情が科学者の顔からさっと消えた。彼はこの質問をメモ帳やコンピュータを使って、長い時間考えた。

1時間くらい考えたあとに、科学者はついにあきらめた。彼は詩人にしぶしぶ50ドル札を手渡した。詩人はそれを丁重に受け取って、また窓の方を向いた。「待てよ！」と科学者が叫んだ。「それはないだろう！ 答えは何だ？」詩人は科学者を見て、静かに5ドル札を彼の手にのせた。

Key Sentences

- 「どうしてパーティーに来なかったの。」 How come で Why の意味(「どうして~?」)だが、Why didn't you come to the party? と違って、下線部の語順が平叙文の語順であることに注意。
- 「この問題を解くのにずいぶん時間がかかった。」 It takes [costs] + (人) + 時間 [お金] + to ~ 「~するのに...の時間 [お金] がかかる」 「超」類出構文。上級編の諸君は、英文をすらすら書けるようにしておきたい。
- 「彼は目を閉じて私の話を聞いた。」 with + 目的語 + 過去分詞 「〔目的語〕を~した状態で」 《付帯状況》を表す構文。第1日の付帯状況を表す分詞構文と関連させて覚える。

解答

- (1) イ (5) エ
- 【全訳】下線部(2)・(3)・(4)を参照。
- ① イ ② ア ③ エ
④ エ ⑤ ウ

解説

- (1) 夕食に招いた日(日曜日)の前日。(5) make out 「理解する」 第1日【Words & Phrases】の figure out もほぼ同義。
- (2) How come ~? は【K.S.1】を参照。make it 「出席する、来る」 (3) It took me quite a while to ... は【K.S.2】を参照。quite a while 「ずいぶんの時間」 (4) with 構文。【K.S.3】を参照。Since a specific date was mentioned に近い意味。
- ① 「なぜマレーシア人の生徒は筆者の家への招待を断ったのか。」 ア「日本人の家には行きたくなかったから。」 イ「筆者の申し出は社交上のものだったから。」 第3段落後半を参照。ウ「京都の友達が同じ日に彼女を訪ねてくる予定だったから。」 エ「当日は出張の予定だったから。」
② 「なぜ筆者はマレーシア人の学生にきつくあたったのか。」 ア「彼女が筆者の家に来なかったことの説明がはっきりしなかったため。」 第2段落最後の she ... left the matter vague に着目する。イ「彼女が筆者に失礼な言葉を言ったため。」 ウ「筆者が彼女に偏見を抱いていたため。」 エ「筆者が彼女に怒っていることを隠したかったため。」
③ 「マレーシア人の京都の友人はどのようにアドバイスをしたか。」 ア「日本人はふ